

## 第1回旧遷喬尋常小学校 検討委員会会議録概要

**日時** 平成30年4月17日(火) 午後2時開会

**場所** 旧遷喬尋常小学校講堂

### 「開会」

(大塚スポーツ・文化振興課長)

・ただいまから、第1回旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会を開会します。

### 「委員委嘱」

NHKエンタープライズ 井上恭介

岡山理科大学工学部建築学科教授 江面嗣人

美作大学生活科学部食物学科教授 遠藤健治

まにワッショイ代表 岡本康治

真庭市立落合小学校校長 奥山仁

東京大学生産技術研究所教授 腰原幹雄

大正大学地域構想研究所教授 清水愼一

真庭観光局地域マネジメント部マネージャー 眞柴幸子

真庭市文化財保護審議会委員 森上知洋

シネマニワ代表 山崎樹一郎

岡山ヘリテージマネージャー機構美作地域会 山崎真由美

### 「市長あいさつ」

(太田市長)

- ・この建物は国の重要文化財であるという意味では、国民共有の財産
- ・近代教育にかける当時の地域住民の情熱、意気込みを感じている
- ・遷喬を国民的財産として、現代的に活用していく
- ・明治の初等教育の原点を示すものとして、今の教育を考える起点としたい
- ・市民を超え、県民あるいは国民に支えてもらえるものにしたい
- ・直すべき所は直して保存し、さらに国民の財産として、活用していけるものにしたい
- ・どこまで市や、市民が応えられるか
- ・それを決めるために、説得力のある提言をいただきたい

### 「会長・副会長の選出」

会長 江面嗣人

副会長 奥山仁 以上2名を選出

(江面会長)

- ・この校舎は国の重要文化財として、大切な宝であると同時に地域の宝
- ・文化財保護法には、「保存し、活用を図り、もって国民の文化的向上に資する」とある
- ・文化財は、いかに利用されていくかが重要
- ・活用の中身、どうあるべきなのかということの先が見えていない
- ・文化財の在り方、保存と活用について、地元の方々が自ら主体的な議論と理解が大事
- ・これから活用の方法、内容そのものが市の力量を表す1つの目安になる

## 「フリートーク」

(井上委員)

- ・人が少ないと寂れていて、人が多ければ良いのだということではない
- ・今まで培ってきたもの、残してきたもの、価値があると思っているもの、価値があるのに忘れているもの、これを未利用資源として、どのように生かしていくのが大切
- ・地域の人の知恵や愛着、移住した人の新しい発想、外部からの目が集まって、知恵を出し合えば、今まで活用されていなかったものが活用される
- ・稼ぐために始まったものでなくても、いろんな形で回っていくと、後からお金も付いてくる
- ・経済成長とかGDP指標で測ろうとすると、大きな産業、大きな消費が必要となる
- ・これからの時代は、一つ一つはミクロだけど、地域の人たちにとって新しいこと、魅力的なことが行われていて、そこには人間の活動が生まれて、金銭的なことも付いてくるような動きが必要
- ・ただ懐かしい、残す、大事にするだけではなく、生かされ方が心に響くようにならないといけない
- ・学校は、学校として使っていた時が一番輝くのではないか
- ・やはり人が集まって、子供たちが集まって活かされるのが一番しっくりくる
- ・学ぶことについて、幅を広げながら、学びの中心とか、なぜこのような立派な学校が建てられたのかということも含めて、発信なり、拠点としていくのが良いのではないか
- ・建物がつくられた元々の意味、持っていた求心力、核となるテーマを据え、メッセージとして発する

(遠藤委員)

- ・校舎に注目が集まるが、校庭も活用をする余地がある
- ・ここに通う子供達は、先祖が造った学校なのだと、大切に、誇りを持っていたのではないか
- ・立派な校舎に、地域の方々の教育に対する心意気が表れているのではないか
- ・子どもの教育に対する心意気が非常に表れていると感じた
- ・この地域の人達が、将来とか未来に相当の気持ちを持っていたということ
- ・教育は、子供に勉強を教えるだけではなく、子供の将来や未来を象徴する存在
- ・地域社会の未来とか、将来に対する心意気を、この建物が象徴するようになれば良い

(岡本委員)

- ・この学校を使って、まちの動きをつくっていきたい
- ・どうやったら大人が楽しそうにやっていけるか、わくわくした姿を子供たちに見せられるか
- ・この場所は学校としての役割が、一番力が出るのではないか
- ・大学の出前講座とかにも使われればありがたい
- ・このまちはそういった人達をサポートできるメンバーがいる

(腰原委員)

- ・木造の学校は、地元の人からすると、シンボリックで自慢でき愛着を持っている
- ・ただし、過疎のために廃校となっているので、大きい建物がお荷物にならざるを得ない
- ・文化財になった途端に、みんな守りに入り、触ってはいけないものになる
- ・大切にするというのは良いが、飾り物みたいにしてしまう所が多い
- ・建物は使われて“なんぼ”なものなのに、重要文化財の建物になると飾り物になる
- ・本来の建物を楽しむということがなくなっている
- ・学校として使っていたときは、毎日掃除をして傷んだ所に手を入れ、一生懸命メンテナンスしていた
- ・重要文化財になり、手を入れるときは覚悟が必要だし、手続きが大変だから控えめなる
- ・最近、活用の可能性が広がっているで、積極的に使っていくことを考えるべき
- ・本来、木造の建物は、メンテナンスをしなければいけない
- ・メンテナンスを逆に観光客にもしてもらおうようなことをする（ぬか袋で来た人が磨くとか）
- ・建築教育、住まい方、建物の手の入れ方は、大学に行って建築をやらないかぎりには習わない
- ・木を使った建築物の手入れ等について勉強できる場になれば、協力ができる

(清水委員)

- ・観光は地域づくりが基本、「住んで良し、訪れて良し」という言葉に置き換えた
- ・外からのお客様との交流を通して、地域の住民が元気になる、これが観光の本質
- ・単にお金が落ちるだけではなくて、地域が盛り上がり、お客様と一緒に楽しむような観光を実践
- ・観光が経済成長と繋がって、キーワードが“稼ぐ”、極めて、いびつな形になっている
- ・まったく地域の歴史と関係ない復元をして、結果的に誰も来なくなったという、ひどい事例もある
- ・そういういびつな格好ではなくて、どうやってうまく両立させるかが大事
- ・何が目的なのか、本物をどういうふうに残していくのかという議論が必要
- ・一つ目は、保存・復元については、本物をきちんと残すこと
- ・二つ目は、飾り物にしない（人工的な手を加えて、余計なものを造ったりしない）
- ・本物のメンテナンスを行ってきた経過をしっかりと踏まえて、地域の人たちの誇りにつながることが大事
- ・保存経費をどうしていくのかという議論も必要
- ・住民の誇りを醸成した上での運営への参加と、来訪者からのコスト徴収なども検討すべき
- ・活用の一番のポイントは、住民自らが運営を担うということが大事

- ・メンテナンスもボランティアを含めた仕組みが望ましい
- ・市民や来訪者から一定程度のお金をいただく仕組みも必要だろう
- ・ガイド、インストラクターを配置し、給食も絡めたプログラムにより、一定程度お金を落としていただく
- ・それが結果的に保存コストに回っていくというような仕組みをつくっていかなければいけない
- ・何もない日本の原風景が今、外国人に非常に関心が高い
- ・四国の祖谷では、かずら橋めぐりとどまらず、廃校寸前の小・中学校で、ツアーの外国人と、子供たちが総合学習の一環で触れ合うプログラムを地元で作り上げた
- ・子供達は、外国人と英語で話ができたと喜んでいる
- ・外国人は、日本の子供達と話をすることができたという形で、お互いに非常に楽しくなっている
- ・そんな形で来訪者と住民との活動があったら良いと思う

#### (真柴委員)

- ・真庭観光局では、新しい観光客の獲得、滞在の仕組みをしっかりと検討していく
- ・その中で、遷喬尋常小学校もポイントとしていきたい
- ・日本の学び舎の文化を体験できる場として、インバウンド獲得にもつなげていきたい

#### (森上委員)

- ・遷喬尋常小学校も活用をするために、まず解体、修理が必要
- ・このままの状態、使用する、大勢の人が入ったりすると、持たないのではないか
- ・細かく見ていくと、部屋にもかなりのひずみが出ている
- ・文化財を観光等に利用して、料金を得て、文化財保護の資金にするのは、とても良いこと
- ・遷喬尋常小学校だけではなく、近くあるいろいろな文化財も含めて観光資源になるのではないか
- ・活用の前に、解体・修理から始めるべき

#### (山崎樹委員)

- ・集まれる場所であったり、休みの時に集える場所として、この場所が残ってほしい
- ・今も残っているのは、久世の方々が意思を持ってというか、残してきた時間がある
- ・ふと入ってきても、この時間の流れ方は、他の建物にはありえない流れ方だし、そこは貴重なもの
- ・時間の流れ方が変わらないように新しいことをしないと、建物の価値が全然なくなってしまう
- ・その一点は大切にしたい

#### (山崎真委員)

- ・この校舎の木材は、木山神社の森から切り出したもので、歴史的由緒がある
- ・もともと、真庭は木材のまちであり、木材活用の観点からもストーリーが作れないか
- ・修理に際しては、木山の木を昔と同じように使えないか
- ・例えば、木山で木を切り、運び、修理する取り組みを学習コンテンツやイベント化し子供達に伝える

ことで今後の活用に関しても子供達が担い手になってくれるのではないか

- ・子供達が真庭の木材や製材、バイオマスなどを勉強できる林業学校の開催や、来訪者への開放

(吉永委員)

- ・新しい校舎を造り、旧校舎は壊す前提で、現在の遷喬小学校が建設された
- ・地域住民の盛り上がりから、保存活動が始まった
- ・何年か経過する中で、国の重要文化財に指定された
- ・重要文化財になることによって、だんだん使えない雰囲気が出てきた
- ・近年、利活用の機運、環境が整ってきた
- ・保存と活用の両方の立場があるが、落としどころを見つけていきたい

(奥山副会長)

- ・“先人たちの情熱に負けない”これをぜひとも検討会でやり遂げたい
- ・活用のキーワードは、“わくわく、どきどき、ほのぼの”遊び心を持って、童心に帰る部分が大切
- ・過去と今を繋ぎ、未来に向かわせるために、まず、過去・物語を残す
- ・出口では未来を向いている
- ・異次元の空間体験を日常的なイベントで体験できる場所

(江面会長)

- ・次回からはテーマをいくつか絞って議論をする
- ・教育の場ということを念頭に置いた発言をいただいた
- ・基本的に、文化財というのは、「使って何ぼ」
- ・活用というものをどのようにしていったら良いのか、方向性がまだまだ定まっていない
- ・真庭で日本全国の範例になるというか、お手本になる事例をつくっていきたい
- ・文化財保護は、国民を対象とした文化的向上、精神的向上が目的
- ・その意味からも、文化財の保護と活用は、教育的な意味が極めて大きい
- ・まさに教育の場で、教育の建物をどうするのか、“学び”をキーワードに、教育する、人をつくっていく
- ・そのために文化財がどのように貢献、発信するのかということが大きなテーマ
- ・遷喬小学校が真庭市のシンボルとなるのであれば、教育への価値ということ
- ・社会機構は、人づくり、人間の育成で成立しており、極めて重要なテーマ
- ・社会が教育のために何ができるのか、ということを問う
- ・小学校というシンボルを中心にして、いかに人づくりに資していくか、1つ大きなテーマ
- ・もう1つは、具体的に何をすべきか、何をしていくのかということが極めて大事
- ・整備と活用という意味であれば、進めていくには、修理というのは避けて通れない
- ・修理をすると同時に、活用策を具体的に進めていく
- ・前回された構造的な診断結果を報告して、次にどのようにしていくのか検討する

(横山参事)

- ・文化財だからといって触ってはいけないわけではない
- ・建造物としての本質を変えないことが大原則
- ・文化財としての価値を後世に残して、なお且つ活用されるものにする
- ・どのような使われ方をするか、将来像をどのように描くか、という中で改修や保存を考える
- ・将来像に基づいて、修理計画や活用計画が示されるべき

## 「閉 会」

(奥山副会長)

委員の皆様お一人お一人から専門的且つ個性的な御意見を伺うことができた。真庭の宝、この校舎を今後も保存をし、活用できますよう、今後も皆様から積極的な関わりをいただきたい。本日は、ありがとうございました。

午後4時43分閉会